

学部 / 看護専門領域 / 看護援助の方法 科目コード:140003 成人・老年看護方法論演習 I Practice: Adult and Gerontological Nursing I												
担当教員	南條 裕子、紺家 千津子、峰松 健夫、額 奈々、臺 美佐子、瀧澤 理穂、星野 真実、北村 言、大橋 史弥、沖田 翔平、松本 勝、幅 大二郎、立川 哲太、長谷川 陽子											
実務経験	複数の教員が担当しており、全員に病院勤務経験がある。											
開講年次	3年次前期	単位数	1	授業形態				講義・演習				
必修・選択	必修	時間数	30									
該当ディプロマポリシー	(1)	(2)	(3)	○	(4)	◎	(5)	(6)				
Keywords	成人期、老年期、周術期看護、日常生活への影響とアセスメント、情報の統合と看護問題の抽出、看護計画立案・実施・評価、看護サマリー											
学習目的・目標	<p>目的 積極的な治療法を受ける成人期・老年期における対象者の生命維持・回復に必要な知識を修得する。また、看護問題の解決に必要な思考力(判断能力、応用能力、問題解決能力)を養い、基本的・実践的な援助方法を修得する。</p> <p>目標 1. 手術を受ける患者の事例を通して、周手術期における退院後の生活も見据えたアセスメントを行い、看護問題を抽出できる。 2. 看護計画を立案し、具体的な援助技術・方法を実践し修得できる。 3. 対象者への援助を提供する際に必要となる倫理的判断に対して、看護の立場から自分の考えを整理できる。</p>											
授業計画・内容												
回	内容											担当
1-2	<p>◆ガイダンス…本授業の進め方、評価について</p> <p>◆全身麻酔で手術を受ける人への看護：大腸がんの患者の事例(術後)を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術中の患者の理解 (全身麻酔、挿管・人工呼吸、循環・輸液管理、体温管理、体位管理、感染、術中の記録) ・術後の回復プロセス (疼痛管理・早期離床、創傷・ドレーン管理) <p>看護展開① 術後のアセスメント(領域別アセスメント:呼吸・循環)</p>											南條、額
3-4	<p>看護展開② 術後のアセスメント(情報の統合・看護問題の抽出)</p> <p>看護展開③ 看護計画の立案</p>											南條、額
5-6	<p>看護展開④ 術直後の看護実践と評価</p> <p>【演習1:シナリオシミュレーション】術直後の患者の状態の把握:呼吸・循環、安全の評価</p>											南條、額、紺家、瀧澤、星野
7-8	<p>看護展開⑤ 術後1日目の看護実践と評価</p> <p>【演習2:シナリオシミュレーション】術後1日目の患者の状態の把握</p> <p>【演習3:シナリオシミュレーション】DVT予防</p>											南條、紺家、額、臺、瀧澤、星野、立川
9-10	<p>看護展開⑥ 術後3日目の看護実践と評価</p> <p>【演習4:シナリオシミュレーション】術後の離床に対する看護の実施</p>											南條、紺家、額、瀧澤、星野、立川
11-12	<p>【演習5】周手術期における排泄援助技術:ストーマサイトマーキングおよびストーマ管理</p> <p>看護展開⑦ 看護計画の評価、サマリー</p>											南條、紺家、額、瀧澤、星野、北村ほか
13-14	<p>【実技評価:OSCE】術後の観察と評価</p>											南條、紺家、峰松、額、臺、瀧澤、星野、北村、大橋、沖田、松本勝、幅、立川、長谷川
15	<p>入院患者の急変時対応</p> <p>【演習6:タスクシミュレーション】一次救命処置</p>											南條、紺家、峰松、額、瀧澤、星野、沖田、立川、長谷川
教科書	看護学テキストNiCE：成人看護学 急性期看護I 概論・周手術期看護(改訂第4版) 南江堂 系統看護学講座・別巻 臨床外科看護総論、臨床外科看護各論 医学書院											
参考図書等	疾病・障害論で使用した教科書及びテキスト 成人看護学概論、成人看護方法論I～III、老年看護学概論、老年看護方法論I・IIで使用した教科書及び資料 看護学大辞典第6版(電子版)メジカルフレンド社(図書館e-book利用可)											
評価指標	筆記試験50%、レポート課題50%											
関連科目	成人看護学概論、成人看護方法論I～III、老年看護学概論、老年看護方法論I・II、成人・老年看護方法論演習II・III、成人・老年看護学実習(急性期)、成人・老年看護学実習(慢性期)、解剖生理学/演習、代謝と栄養、疾病・障害論I～IIC、フィジカルアセスメント、薬理学など											
教員から学生へのメッセージ	対象者の生命維持・回復・社会復帰を支えるためには、身体の状態の評価に加え、痛みや不安、退院後の生活にも目を向けた根拠に基づくアセスメントが重要です。侵襲とその回復過程に伴う身体とニードの変化を捉え、看護につなげられるよう積極的に演習に臨みましょう。											